

1. 第15回 飛鳥宮跡活用検討委員会の開催結果

第15回飛鳥宮跡活用検討委員会の概要は、以下のとおりです。

【報告案件】

1. 飛鳥宮跡保存活用計画の策定について〔公園緑地課〕

文化庁との協議を経て令和4年3月末の策定・公表を予定している。

2. 当面の整備と活用について〔文化財保存課〕

令和4年度において、既に公有化している史跡飛鳥宮跡の見学ルート上に、仮設の説明板および内郭(天皇が政治・儀式を執り行い、住まいとした宮殿の区域)の南門や主要建物の柱跡を表示する木柱を設置し、既整備区域である井戸跡から史跡・名勝飛鳥京跡苑池を結ぶ仮設園路を整備する。

(意見)

- ・内郭の中心軸がわかるような整備をしてほしい。
- ・説明板は飛鳥の歴史に詳しくない学生や旅行客が見ても分かるようにすることをお願いする。

3. 令和4年度以降の発掘調査について〔文化財保存課〕

過去に調査しているが、古いため位置情報が記録できていない区域や、建物等の形状が確認できていない区域から実施する計画であるが、本委員会で議論いただいて策定する飛鳥宮跡整備基本計画で示される整備内容やスケジュールに応じ見直していく。

(意見)

- ・史跡の指定と用地買収を進めていくことが必要である。
- ・史跡の入口となる南側の公有化された区域から調査を進めるべきである。

【議事】飛鳥宮跡整備基本計画について〔公園緑地課〕

飛鳥宮跡保存活用計画における整備の基本的な考え方を踏まえ、整備の方向性(案)を示した。

(概要)

- 内郭の南方、南門前の石敷広場をメインエントランスとする。
- 天皇の政治・儀式の場であった内郭内部の南側では、敷石等の遺構復元を行う。
- 内郭の北方では水田景観を保全するとともに、古都買入地を活用して休憩所等の整備を行う。
- 飛鳥宮跡の情報発信をするための解説サインや情報コーナーの整備を行う。

(主な意見)

- ・主にハード整備の計画であるが、仮設物やバーチャルリアリティなどを組み合わせて、柔軟に活かす考え方も含めて検討すべき。
- ・周辺の文化観光施設からの動線は、徒歩、自転車及び低速移動手段が前提、宮跡内は徒歩のみというのが前提ではないか。
- ・飛鳥板蓋宮の時代を表現したり、飛鳥宮の変遷の説明や、当時の宮廷生活の再現を行う場合、仮説でもよいので手掛かりが必要。
- ・広いため平面表示ではどこに何があったのかがわかりにくいので、何らかの立体表示は必要。
- ・重要建物(南門、前殿、南正殿、北正殿、長廊状建物)の遺構立体表示のあり方については、様々な事例やパターンの案を示してほしい。
- ・発掘調査によって判明した飛鳥宮ならではの技術や柱の構造を、構造模型のような形で見学できるとよい。
- ・敷石等の露出展示について議論の対象としてほしい。

2. 日時：令和4年2月10日（木） 10時～12時

3. 場所：奈良県橿原考古学研究所 3F 会議室

4. 出席者

委員等名簿（五十音順、敬称略）

	氏名	役職	出欠
副委員長	青柳 正規	奈良県立橿原考古学研究所 所長	出
委員	黒田 龍二	国立大学法人神戸大学 名誉教授	出
委員	小林 牧	国立文化財機構文化財活用センター 副センター長	欠
委員	櫻井 敏雄	公益財団法人和歌山県文化財センター 理事長	欠
委員	染川 香澄	ハズ・オンプランニング 代表	出
委員	田島 公	国立大学法人東京大学 史料編纂所教授	出
委員長	田辺 征夫	公益財団法人元興寺文化財研究所 所長	出
委員	寺西 和子	飛鳥京観光ボランティアガイド	出
委員	仲 隆裕	学校法人瓜生山学園 京都芸術大学 教授・歴史遺産学科長	出
委員	古瀬 奈津子	国立大学法人お茶の水女子大学 名誉教授	出
委員	増井 正哉	国立大学法人京都大学大学院 人間・環境学研究科教授	欠
委員	松村 洋子	奈良県公認ツアーエキスパートの会 代表	出
委員	森川 裕一	明日香村 村長	出

	氏名	役職	出欠
国関係者 (オブザーバー)	浅野 啓介	文化庁文化財第二課 文化財調査官（史跡）	出
	市原 富士夫	文化庁文化財第二課 文化財調査官（整備）	欠
	中村 孝	国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所 事務所長	出

関係者 南部東部振興課、文化資源活用課、明日香村

事務局 公園緑地課、文化財保存課